

「D身近な消費生活と環境」をA B Cの内容に盛り込む――



第1学年

学 習 内 容			時間数	学 習 活 動 〔■この項の学習課題／○生徒の活動，☆教師の活動〕
家庭分野ガイダンス (p.11～15)			1	■家庭科が技術・家庭に変わります。 ○小学校で製作した作品と教科書を持参する。
D身近な消費生活と環境	「エコロジーな生活」今の私にできること	4. 環境に配慮した生活 (p.226～237) ①環境への影響を考える ②エネルギー消費とCO ₂ 排出を減らす ③水を節約し、排水の汚れを減らす ④環境への影響を考えた消費生活 ⑤持続可能な社会へ向けて	5	■“エコロジーな生活”今の私にできること。 ○エコって何なの！身の回りのエコロジーな生活を探し、「家族」「衣」「食」「住」で取り組める活動ごとに分類してみる。 ☆A B Cの内容と関連づける。自分や家族の生活の仕方が環境に影響していることに気づかせる。 ○エコポイント製品の開発やエコ的な実践に取り組むための計画を立てる。 ☆継続した実践になるよう、3年間を見通した計画案を立てる。修正は随時可能として、年間2回程度意識が確認できるように計画案を活用する場面を位置づける。
C衣生活・住生活と自立	人間を取り巻く環境	C1自分らしく着る・快適に着る C2快適に住まう C3生活を豊かにする物をつくる (p.146～149, p.174～175, p.188～189)	2	■人間を取り巻く環境を快適で豊かにするために今の私にできることを見つけよう。 ○小学校での学びを確認し、実生活へどれだけ生かしているのかを確認する。 ☆自立度チェック表を活用し、課題づくりへ導く。
	自分らしく着る「ホップ・ステップ・ジャンプ」	1. 日常着の活用 (p.150～157) ①衣服のはたらき ②自分らしく目的に合わせた着方 ③衣服の活用と選び方	4	■自分らしく着る「ホップ・ステップ・ジャンプ」 ○小学校の学びをふり返り、はたらきを知る。 ○制服調べから、表示や選択方法を学ぶ。 ○浴衣の着用を通して、衣服の構成や民族衣装の歴史を知る。 ○カラーシートやファッション雑誌を使い自分らしい着方や目的に合わせた着方を知る。 ☆班ごとに持ち寄った衣服でコーディネートした作品を評価しあう報告会を企画し、日常着の活用をまとめる。
	気持ちよく着る「ホップ・ステップ・ジャンプ」	2. 日常着の手入れ (p.158～169) ①汚れと手入れ ②手入れと表示 ③衣服の洗濯 ④衣服の補修とアイロンかけ	4	■気持ちよく着る「ホップ・ステップ・ジャンプ」 ○ゲストティーチャー（保護者等）から、しみ抜き、洗濯、アイロンかけ、まつり縫い、スナップつけの方法を学び、さらに生徒同士での学び合い学習で深める。 ○長期休みを利用した洗濯実習 ☆レポート作成を通して、手入れと補修の技術や環境面への配慮した衣生活を身につけさせる。
	安全に住む「ホップ・ステップ・ジャンプ」	1. 住まいのはたらき (p.174～179) ①住まいのさまざまな役割 ②共に住まう	6	■安全に住む「ホップ・ステップ・ジャンプ」 ○学区の住宅展示場の見学や自宅の調査活動を通して、安全対策の基本を学ぶ。 ○高齢者や幼児の目線で器具を活用し、家庭科室や校内で体験する。 ○防災訓練用ビデオ「地震」の視聴により、班で災害への備えに向けての話し合い活動をする。 ☆体験学習や言語活動を多く取り入れ、住まいのはたらきや安全面の学習に深まりをもたせる。
	快適に住む「ホップ・ステップ・ジャンプ」	3. 快適な住まい (p.184～187) ①室内の空調調節 ②住まいと音	3	■快適に住む「ホップ・ステップ・ジャンプ」 ○快適な住まいをアピールする広告用パンフレットを作成「五感を活用して快適な住まいの調査をしよう（視・聴・嗅・味・触）」。 ☆健康面や生活音に配慮した住まい方を取り入れた広告パンフレットの製作をすすめる。
	生活を豊かにするための「豊かポイント」の製品開発	1. わたしや家族の生活を豊かにする工夫 (p.188～190) 2. 布を用いた物の製作 (p.191～201) 学習のまとめ (p.202～205) 生活の課題と実践 (p.250～253)	10	■生活を豊かにするための“豊かポイントの製品開発” ○縫い始める前の基礎技能の確認（まち針打ち、運針、玉結び、玉留め、ミシン縫い） ○布地や眠っている衣服を活用した“豊かポイント製品”の製作表づくり ○型紙づくり、しるしつけ、裁断 ○縫う、仕上げ ○“豊かポイント製品”の展示発表会 ☆生活を豊かにするための工夫を意識させ、実生活で活用できることを基準に製作を取り組ませる。 ○学習のまとめ“衣生活・住生活の自立”をふり返り、新たな課題の問題解決的な学習計画を立てる。 ○実践報告会をおこなう。 ☆食生活をよりよくする取り組みや豊かにするための工夫が考えられるよう支援する。

第2学年

学 習 内 容			時間数	学 習 活 動 〔■この項の学習課題／○生徒の活動，☆教師の活動〕
D身近な消費生活と環境	「身近な消費生活」今の私にできること	1. 家庭生活と消費 (p.206～209) 2. 商品の選択と購入 (p.210～217) ①商品購入のプロセス ②生活情報の活用 ③商品の価格 ④販売方法と支払い方法 3. よりよい消費生活のために (p.218～225, p.237) ①消費生活のトラブルを防ごう ②消費者の権利と責任 ③消費者を支えるしくみ	7	■“身近な消費生活”今の私にできること。 ○小学校での物や金銭の使い方と買い物ふり返り、学習の流れを知る。筆箱の中身調査。 ○中学生を含んだ想定家族をつくり、1ヶ月間4.4万円で生活、様々な場面設定をつくり、収入と支出のバランスをグループで考える。 ○架空の特産物販売プロジェクトを立ち上げ、宣伝情報、価格の設定、販売方法をグループごとに考える。 ○中学生にかかわりの深い事例をもとに、ロールプレイングを用いて、適切な消費行動の取り方を学ぶ。（地域の消費生活センターとの連携授業、クーリング・オフはがきの書き方） ☆トラブルについてのロールプレイングや特産物販売プロジェクトの授業を通して、関心を深め、主体的な消費行動の取り方を知らせる。
B食生活と自立	自分点検	1. 健康と食生活 (p.66～71) ①食事について考える ②生活のリズムと食事	1	■自分の食生活を見直そう。 ○自分の食生活を簡単にチェックし、食事の役割やよい食習慣を知り、関心を深める。 ☆グループ活動を取り入れ、自分の食生活を他と比較しながら見直す手だてとする。
	あなたは一人で料理が出来ますか	3. 調理をしよう (p.102～108) ①調理の計画 ②調理の基本	6	■あなたは一人で料理が出来ますか。 ○調理室を活用し、オリエンテーリング形式で調理器具を探す。 ☆グループで、調理室の引き出しや戸棚を探しながら、実習に必要な器具の配置を学んでもらう。 ○きゅうりを活用して、切り方や技能検定（30秒で50枚切れるか）をおこなう。 ☆技能試験を取り入れることにより、包丁を持つことへの関心を高める。 ○「オリジナル野菜料理試験」として、45分間で準備・調理・試食・後片付けをおこなう。 ☆購入や実習には「D身近な消費生活と環境」とリンクさせ、自分一人の手でどれだけできるのかを体験する。二人一組（調理者と評価者）になり、お互いの作品を評価しあう。 ○課題づくり「自分の食生活を豊かにするための第一歩」とし、今までの自分を見直す。 ☆体験することで新たにわかった自分への課題を発見し、学習意欲を高める場面づくりをする。

学 習 内 容			時間数	学 習 活 動 〔■この項の学習課題／○生徒の活動，☆教師の活動〕
B食生活と自立	健康や成長を考えた食事について考えよう	1. 健康と食生活 (p.72～87) ③栄養素のはたらきと食品 ④中学生に必要な栄養 ⑤食事の計画 （日本食品標準成分表 p.142～145）	4	■健康や成長を考えた食事について考えよう。 ○中学生に必要な栄養素調べをおこなう。 ☆調べ学習および発表会もおこない、中学生に必要な栄養素の特徴に関心をもたせる。 ○実際の食材を計量したり、カードを用いて食品群に分類することで、一日に必要な食品の概量を実感する。 ☆食品を切ったり計量したりすることで一日分の概量を実感させる。 ☆なす、ピーマン、たまねぎ、にんじんを活用して環境を意識し、可食部分を増やす食材の扱い方を取り入れることもできる。 ☆切った食品を活用し、ビタミンCの検出実験やごまとピーナッツをつぶし、脂質を含んでいることを実感させる。 ○中学生に必要な一日分の献立をつくる。 ☆給食の献立（主食、主菜、副菜、汁物の組み合わせ）を基本として、朝食や夕食を考える。レーダーチャートを活用し、グループ内での比較から、献立の栄養バランスを見直す。 ☆食育の充実を目指し、栄養士と連携して授業を進める。
	エコクッキングは「食品選び」から始まります	2. 食品の選択と保存 (p.88～101) ①食品が口に入るまで ②生鮮食品の選び方 ③いろいろな加工食品 ④加工食品の表示 ⑤加工食品の選び方 ⑥保存のしかたを考える ⑦食品の安全と情報	4	■エコクッキングは“食品の選択と保存”から始まります。「エコ食新聞づくり」 ○我が家にある食材調べをおこない、食材と保管場所の分類をし、生鮮食品、加工食品と表示、食品の選び方と保存、食品の安全性についてグループ別調べ学習をすすめる。 ○各グループで取材した内容は、新聞形式でまとめ発表する。 ☆「D身近な消費生活と環境」とリンクさせる。 ☆新聞として残るため、いつでも活用できる資料として調理室に掲示する。 ○グリーン・コンシューマーを意識した調理実習買い物グループをつくる。 ☆広告用紙や家族からの聞き取り調査をもとに、調理実習の買い物グループの準備をさせる。
	エコクッキングを「自分の手」で創り出そう	3. 調理をしよう (p.109～133) ③肉の調理 ④魚の調理 ⑤野菜の調理	10	■エコクッキングを“自分の手”で創り出そう。 ○50分間で仕上げる調理実習 魚の調理「いわしのさんが焼き（手開き体験）」 「さばのみそ煮ととうふのすまし汁」 肉の調理「豚肉のしょうが焼きとわかめスープ」 「ハンバーグステーキとつけあわせ」 野菜の調理「煮物（郷土の野菜を用いて）」 ☆エコポイントの高い調理実習を意識させる。 （段取りの良さ、郷土の食材、熟練の効果的な活用、水や排水、ごみの減量等） ☆煮る、焼く、炒める、調味、盛りつけ等五感を大切に調理実習を考えさせる。
	郷土の味と食文化を守ろう	4. 地域の食材と食文化 (p.134～141) ①地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化 ③地域と世界へ目をむけて 学習のまとめ 生活の課題と実践 (p.246～249)	3	■郷土の味と食文化を守ろう。 ○郷土料理をゲストティーチャーから学ぶ。 ☆郷土料理づくりと講話を聞くことにより、地域の食文化に関心をもたせる。 ○学習のまとめ“食生活の自立”を振り返り、新たな課題の問題解決的な学習計画を立てる。 ○実践報告会をおこなう。 ☆食生活をよりよくする取り組みや豊かにするための工夫が考えられるよう支援する。

第3学年

学 習 内 容		時間数	学 習 活 動 〔■この項の学習課題／○生徒の活動，☆教師の活動〕
A 家族・家庭と子どもの成長	自分家族 1. わたしの成長と家族 ①わたしの成長 (p.18～19)	1	■幼児期の自分をインタビューしよう。 ○インタビュー用紙を活用して、自分の成長にかかわった人たちに気づく。 ☆インタビュー用紙には、幼児期の写真を貼らせ、クラス交流で活用することを伝えておく。
	子育て中の家族に話を聞こう 1. わたしの成長と家族 (p.20～21) ②わたしを支えてくれた家族や周囲の人びと 3. 幼児の生活と遊び (p.28～39) ①幼児期ってどんな時代？ ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④子どもの成長と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域	3	■幼児の子育てにかかわっている家族に話を聞こう。 ○親子を招待するための準備をする。 ☆インタビュー内容の検討とグループ内の役割を決める。親子とは手紙や電話にて日程、インタビュー内容、招待状等を準備する。 ○親子を家庭科室に招待し、幼児の生活や家族の役割をインタビューし、ふれ合いをする。 ☆幼稚園入園前の幼児に來校してもらい、幼児の体、心、遊び、一日の生活等をインタビューする他、幼児と触れ合う機会も設ける。グループで報告会をおこない、子どもにとっての家族の役割をまとめ、発表させる。 ☆お礼状をつくり、届ける。
	幼児のために廃物を活用した安全で丈夫な遊び道具をつくろう 3. 幼児の生活と遊び (p.40～47) ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える 4. 幼児とのふれ合い (p.48～55) ①ふれ合い体験の前に ②ふれ合い体験をする ③ふれ合い体験をふり返る	6	■幼児のために廃物を活用した安全で丈夫な遊び道具をつくろう。 ○訪問する幼稚園や保育所の幼児の成長や発達の様子を知る。 ○年齢にあった遊び道具の製作をする。 ☆「D身近な消費生活と環境」とリンクさせ、遊び道具の製作には廃物を活用した本や廃材見本を準備する。 ○幼稚園や保育所へ訪問し、幼児と一緒に遊ぶ。 ☆ふれ合いの報告会を企画し、幼児とのふれ合いのようすを語ったり、レポートにまとめたりしながらふり返りの時間をつくり、幼児への理解を深める。
	よりよい家族関係について考えよう 2. わたしたちと家族・家庭と地域 (p.22～27) ①家庭のはたらき ②家庭生活を支える仕事 ③わたしたちの家庭生活と地域 5. これからのわたしと家族 (p.56～57) ①中学生と家族とのかかわり	5	■よりよい家族関係について考えよう。 ○自分史をつくろう ☆自分の成長、家族のかかわり、地域のかかわりをとりいれた自分史をつくり、家族や地域がどのようなかわり方をしたのかに気づかせる。 ○ロールプレイング「我が家の思いやりの言葉復活の手だて」 ☆グループをつくり、シナリオ、演技、批評会をととして、家族関係をよりよくする方法を考えさせる。
	感謝を伝えるプロジェクト 5. これからのわたしと家族 (p.58～65) ②これからのわたしと家族との関係 これからの家庭生活と地域・社会 (p.254～257) 3年間の学習のまとめ	2.5	■感謝の気持ちを伝えるプロジェクト。 ○義務教育終了を前に15年間育ててくれた家族や地域に感謝の活動計画を立て、実践活動をする。 ☆実践例（卒業式に家族に感謝の気持ちを伝える手紙、家庭でおこなう感謝の仕事、家族への想いを込めたプレゼント、地域を安全に守る活動、3年間でかかわった地域の方への感謝カードづくり、気持ちを伝える謝辞等） ○3年間の学習をふり返り、生活のしかたを考える。 ☆家庭・地域・社会に支えられている生活に感謝の気持ちをもち、自分が支える立場になるための準備期間をこれから大切に過ごすことを確認する。

技術・家庭 家庭分野 3年間を見通した年間指導計画案 例②

——「D身近な消費生活と環境」をA B Cの内容に盛り込む——

週（時）		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35							
1年 35時間	学習内容	家庭分野ガイダンス	D 身近な消費生活と環境					C 衣生活・住生活と自立																																			
								1. 自分らしく着る・快適に着る（わたしたちと衣生活）														2. 快適に住まう						3. 生活を豊かにする物をつくる															
			「エコロジーな生活」今の私にできること					人間を取り巻く環境	自分らしく着る ホップ・ステップ・ジャンプ				気持ちよく着る ホップ・ステップ・ジャンプ				安全に住む ホップ・ステップ・ジャンプ						快適に住む ホップ・ステップ・ジャンプ		生活を豊かにするための「豊かポイントの製品開発」																		
			・身の回りのエコロジー探し ・3年間を見通したエコ的な実践計画					自立度チェック 衣生活のサイクル p148	・浴衣の着用 ・制服調べ（表示選択） 衣服の活用と選び方 p156				・休みを利用して洗濯実習 ・ゲストティーチャーから手入れや補修の方法を学ぶ 環境に配慮した衣生活 p170				・災害に備えての対策 ・高齢者や幼児の目線で体験活動 ・住宅展示場の見学もしくは、自宅の調査活動						・快適な住まいのアピール広告づくり		・基礎縫い	・デザインと製作計画表づくり	・製作と展示会	製作例…ペットボトルホルダー、フイルカバー、ブックカバー、シヨルダーバッグ、ウオールポケット、いすカバー、ティッシュカバー、エフロン、ハーフパンツ、ベスト等				エコバッグの製作 p250	・学習のまとめと生活の課題と実践										
			授業時数					1	5					2		4				4				6						3		2	1	6						1			
学習指導要領		A(1)7		D(2)ア					C(1)(2)(3)		C(1)アイ				C(1)ウ				C(2)アイ						C(2)イ		C(3)アイ																
教科書該当頁		11～15		226～237					146～173		150～157				158～173				174～183						184～187		188～205, 250～253																
2年 35時間	学習内容	D 身近な消費生活と環境							B 食生活と自立																																		
		「身近な消費生活」今の私にできること							自分点検	あなたは一人で料理が出来ますか					健康や成長を考えた食事について考えよう					エコクッキングは食品選びから始まります					エコクッキングを自分の手で創り出そう										郷土の味と食文化を守ろう								
		・クリーニング・オフはがきに挑戦 ・ロールプレイングで事例体験 ・特産物販売プロジェクト計画 ・収入と支出のバランスゲーム ・筆箱の中身調査							食物が果たす役割と食生活点検	・課題づくり ・オリジナル野菜料理試験 ・きゅうりを使って切り方テスト ・調理室の中でオリエンテーリング					・一日分の献立作成 ・食品の概量調べ ・栄養素調べと発表会					食品の選択と保存 p88 調理実習の買い物グループづくり 調べ学習とエコ食新聞づくり					環境に配慮した調理 p102 50分で仕上げる調理実習 地域の食材を活用しよう p122 伝統食の中にもみるエコクッキング p129										学習のまとめと生活の課題と実践 郷土料理をゲストティーチャーから学ぶ 地域と世界へ目をむけて p138								
		授業時数							1	6					4					4					10										3								
		学習指導要領		D(1)アイ							B(1)ア		B(3)ア					B(1)イ(2)アイ					B(2)ウ					B(3)ア										B(3)イウ					
教科書該当頁		206～225, 237							66～71		102～108					72～87, 142～145					88～101					109～133										134～141, 246～249							
3年 17・5時間	学習内容	A 家族・家庭と子どもの成長																																									
		自分家族	子育て中の家族に話を聞こう				幼児のために廃物を活用した安全で丈夫な遊び道具をつくろう				よりよい家族関係について考えよう					感謝を伝えるプロジェクト																											
		幼児期の自分をインタビュー	・報告会で家族の役割をまとめる ・家庭科室で親子とのふれ合い				・ふれ合いレポートづくり ・幼稚園や保育所への訪問 ・年齢にあった遊び道具の製作 幼児と遊ぶおもちゃづくり p44				・ロールプレイングで我が家の思いやりの言葉復活 自分史づくり					家庭のはたらきを支えるには p23 ・3年間のふり返りと学習のまとめ ・家族や地域への感謝の活動 持続可能な社会をつくる p256																											
		授業時数		1		3				6				5					2.5																								
		学習指導要領		A(1)7		A(3)アウ				A(3)アイウ				A(1)ア(2)アイ					A(2)アイ																								
教科書該当頁		18～19		20～21, 28～39				40～55				22～27, 56～57					58～65, 254～257																										
・3年間の学習で、消費生活と環境に目を向け、実生活に取り入れて生活できるようになることをねらいとします。																																											
・「D 身近な消費生活と環境」の内容を1年生と2年生の学習のはじめに位置づけ、ABCの内容と関連づけて計画しました。 （吹き出し部分は、「D 身近な消費生活と環境」にリンクしている教科書の内容です。）																																											
・「C 衣生活・住生活と自立」では、「衣・住」を「人間を取り巻く環境」としてとらえた流れにしました。																																											
・問題解決的な学習になるように、自分をふり返る時間を設け、課題をつくって、学習を進めています。																																											
・言語活動の重視や表現力を培うことを意識し、報告会、発表会、レポート・新聞・広告を作成する活動や、ゲストティーチャー、見学・訪問やご招待の場面づくりを設定しました。																																											
・この年間指導計画案の具体的な学習指導案は裏面に掲載しています。																																											